

2022 年度ジャイアンツカップ 北信越 B ブロック代表決定戦試合規程

今大会は原則として当該年度の公認野球規則、および大会特別規定を適用して開催する。

1. 各チームは原則としてその会場の前の試合の 4 回終了時（但し 4 回時点でのコールドゲーム が成立した場合は試合終了後。第 1 試合については試合開始 40 分前）までに所定のメンバー表を競技委員会に提出して審判員立会いの下で先行・後攻を決める。また必要に応じ投手の投球数確認シート（各投手それぞれに前の試合までの投球数を記入する事）も提出する。
2. 試合は原則として 7 回イニング制とし、4 回終了時点を持って成立試合とする。また試合成立後、雨天などやむをえない事情で試合続行が不可能になった場合は、両チーム攻撃が完了した均等回までの成績を対象とする。
3. コールドゲーム宣告の時点での引き分けの場合、打ち切り時点におけるメンバー 9 人ずつによる抽選で次の試合に進出するチームを決める。
4. また 4 回を満たさずに試合が中止となった場合にはサスペンデッドゲームとして、後日大会本部が指定した会場・日時で続きを行う。
5. 得点差によるコールドは 4 回以降終了時 10 点差、5 回終了時以降 7 点差以上ついた場合に適用する（決勝戦は対象外）。
代表決定戦は決勝とは考えないが、点差によるコールドゲームとはしない。
6. 試合は 2 時間制限試合とし、4 回以降試合開始から 2 時間を超えては新しいイニングには入らず、制限時間に達した時点でのイニング（表裏）を最終回とし、そのイニング終了時点で同点の場合は、それ以降はタイブレーク方式を採用する。
 - ◆ タイブレーク方式は、1 アウト満塁の状態再開する。この場合、前のイニングの打撃を完了した選手の次の打順の選手が最初の打者となり、走者は 1 塁から順に前のイニングの最後から数えて 3 人の打者が勤める。（怪我などその他の理由での代打と代走は認めない）タイブレーク方式は、試合が決着するまで行う。
 - ◆ 投手のノーヒットノーランは認めるが、完全試合は認めない。またタイブレークにより出塁した 3 人の選手は自責点扱いしない。
 - ◆ 打者はタイブレークにより出塁した 3 人の選手は出塁の記録は認めないが、盗塁（盗塁死を含む）、得点、残塁は記録する
7. 投手の投球数制限について
 - ◆ 1 日最大 80 球以内とし、連続する 2 日間で 120 球以内とする。連続する 2 日間で 80 球を超えた場合、3 日目は投球を禁止する。
 - ◆ 3 連投（連続する 3 日間で 3 試合）する場合は、1 日の投球数を 40 球以内とする。4 連投（連続する 4 日間で 4 試合）は禁止する。
 - ◆ 1 日 80 球投球後、翌日投球を休めば、3 日目は 80 球の投球を可とする。
 - ◆ 上記 1～3 を基本原則とするが、打席の途中で制限数が来た場合は当該打者の打席終了までは投球を認める。制限数を超過した球数は翌日以降の投球数にはカウントしない。

- ◆ 連続する2日間で80球を超える投球をした投手、並びに3連投した投手は、登板最終日並びに翌日は捕手としても出場できない。
 - ◆ ボークは投球数としない。
 - ◆ 雨などでノーゲームとなった試合は投球数にカウントする。
8. 打者（次の打者も）・走者は危険防止のため必ず両耳に安全ガードを付けたヘルメットを装着すること。捕手も防護ヘルメットや所定の防具を装着すること。
 9. 怪我などの理由により一時的に出場できない選手に対して「特別代走」を認める。この場合、その打者の最も近い打撃を終えた投手以外の選手を対象とする。
 10. 監督コーチは1試合につきマウンドへ行けるのは2回まで。（投手交代の場合は回数に数えない）3度以上マウンドに行ったら、その時点の投手は自動的に交代しなければいけない。またタイブレークになった場合はそれ以前の回数に関係なく、3イニングにつき1回だけ投手のところへいくことは認める。
 11. 守備側タイム・攻撃側タイムは1試合（7イニング）につき2回とする。
 12. 延長回に入ったら、守備側タイム・攻撃側タイムは3イニングに1回とする。
 13. グラウンド内でブルペンでの投球練習を行うときは、必ず打球監視員を置く
 14. 試合前の用具チェックは、各団体の審判員があたる。用具チェックの時期はベンチ入り後、アップ前に行う。
 15. 次打者は、必ずネクストバッターサークルに入る。待機する姿勢は各団体に任せる。
 16. ネクストバッターの次打者の、ベンチ前での素振りは禁止する。
 17. 投手の12秒、20秒ルールは適用しない。
 18. ベンチ前のキャッチボールを禁止する。
 19. ブルペンの使用については、バッテリーの投球練習か野手の送球練習を1組認める。
 20. 第1試合4回終了時、次試合バッテリーの投球練習は禁止とする。
 21. 試合前の投球練習は、初回7球・2回以降3球・投手交代時5球とする。
 22. 申告敬遠は行う。
 23. サングラスの使用を認める。（用具チェック時に審判員が確認する。）
 24. ベンチ内のメガホン持ち込みは禁止する。
 25. スタンド内での父兄の応援方法については、**マスク着用の上拍手のみとする。**
 26. 選手のネックレス着用は認めない。
 27. 走者の走塁用手袋の使用は認めない。
 28. 手袋・リストバンド（アームリストバンドを含む）・リストガード・保護ガード等に関して市販されているものは全て認める。色は各団体に任せる。
 29. 親指用バットグリップ（詰まり防止パッド）の使用を禁止する。
 30. ボールボーイ、バットボーイ、シートノック補助員は登録選手18名から出す。
 31. 気候、グラウンド状況に応じてグラウンド整備を行う。グラウンド整備の時間は試合時間から除く。
 32. コーチボックスには、監督、コーチ、選手のいずれかが入る。必ずヘルメットを着用する。（選手は両耳ヘルメットを着用）
 33. その他、記載のない事項については、第16回ジャイアンツカップ大会約款を参照する。